



二川宿まち並み通信

第15号 平成28年7月1日
発行：‘二川宿’まちづくり会
大岩町東まちづくり会
大岩中まちづくり会
協力：豊橋市都市計画課



▲6/10 東京都で開かれた表彰式の様子



▲市長が代表で、国土交通大臣から表彰状を受け取りました



▲出席者で記念撮影。左から共同受賞者のNPO法人二川宿 山本理事長、豊橋市 佐原市長、豊橋技術科学大学 大貝副学長、二川つるし飾りの会 野田代表、一番右が 大岩中まちづくり会 横田会長

住民みんなの取り組みが評価されました！

平成28年度 都市景観大賞「都市空間部門」大賞 受賞！

私たちが美しいまち並みづくりの活動をしている‘二川宿’が平成28年度の都市景観大賞の大賞を受賞しました！今回の受賞は、私たち3会だけでなく、校区自治会を始め地域の様々な活動団体や、住民ひとりひとりのまちづくりへの取り組みの成果が実ったものと思います。この受賞を機に、さらにみんなで二川宿を盛り上げ、美しく誇りと愛着の持てるまちづくりを進めていきたいと思ひます！

節目に受賞、光栄ですね。



‘二川宿’まちづくり会
会長 山本 剛生

活動を開始して10年。この節目に「都市景観大賞」受賞は、光栄ですね。

皆様のご協力のおかげです！

■3会 会長よりあいさつ

皆さんに知ってもらえて嬉しい。



大岩町東まちづくり会
会長 白井 満春

大賞受賞、うれしく思います。住民や活動団体はもちろん、その他関係者の皆様のご協力のおかげです。今回の受賞を機に、多くの人に二川宿のことを知っていただけたことをとてもうれしく思います。今後もこうした活動を続けていきたいと思ひます。

これからさらに楽しみ。



大岩中まちづくり会
会長 横田 健

表彰式に参加させていただきました。今回の受賞は皆様のご協力のおかげです。今年4月に私たちは「大岩中まちづくり協定」を締結しました。今後活動を進め、まちがきれいになっていくのが楽しみです。これからも大賞に見合うまちへさらに進めます。

■裏面に応募の概要と審査講評があります →

「大賞」(国土交通大臣賞)

応募の概要と審査講評

■地区名：旧東海道二川宿地区

■面積：約 35.5 ha

■所在地：愛知県豊橋市

■応募者：豊橋市、'二川宿'まちづくり会、大岩町東まちづくり会、大岩中まちづくり会、NPO法人 二川宿、

二川・大岩まちづくり協議会、岩屋緑地に親しむ会、二川リンケージ、二川つるし飾りの会、国立大学法人 豊橋技術科学大学

■地区の概要：

二川宿は、旧東海道 33 番目の宿場町で、今でも当時の町割りや本陣などの歴史的建造物が残っている。しかし、切妻平入りの家々が建ち並ぶ伝統的なまち並み景観は大きく失われ、人の繋がりやまちの活気も薄れつつあった。伝統的建造物群保存地区に選定されるには至らない、どこにもでもあるような古いまちで、いかにまち並みを再生し、活気を取り戻すかが課題であった。

市は、昭和 58 年から宿場町の環境整備調査を実施し、宿駅遺構である本陣、旅籠屋、商家を文化財として順次整備し、平成 18 年からは住民と協働によるまち並み景観形成に取り組み出した。一方、地域住民は、様々な団体がまちの魅力向上や、まちの活性化に寄与する活動を、相互に連携しながら進めてきた。この様に、残された 3 つの宿駅遺構を景観の核とし、無理のない景観形成基準を官民で共有し、丁寧な取り組みを継続して進めてきた長年の取り組みにより、旧街道のまち並み景観や瀬古道の路地空間が再生され、更には、住民による花の飾り付けなどが彩りを添え、宿場町の風情が高まっている。

まち並み景観の再生がきっかけとなり、地域イベント等の住民活動も年々広がりを見せ、まちに活気が戻りつつある。また、住民のまちに対する誇りが増し、外部の人からも選ばれるまちになってきたが、まだまだ再生途上であるため、今後も住民と行政のさらなる取り組みを進めていく。

■審査講評：

豊橋市は、すでに昭和 58 年から二川宿の歴史的資源の調査をはじめ、これまでに本陣、旅籠屋「清明屋」、商家「駒家」の復原工事を行い、一般公開をしてきた。平成 19 年には延長 1.5km にわたる旧宿場町のほぼ半分を景観条例に基づく「二川宿景観形成地区」に指定し、沿道の建物や工作物等のデザイン誘導をはかってきた。平成 22 年、27 年にはさらに地区を拡大し、現在ではほぼ地区の 8 割が指定されている。その結果、36 件の物件に助成金が出され、まち並み環境は大きく変わってきた。住民との合意形成に時間をかけながら、丁寧に景観形成に取り組んでいること、また改修等のデザイン提案についても、都市計画課の職員が自ら CG を描いて、住民と直接話す話し合う方式は大変素晴らしい。

一方、関係住民団体や NPO も 8 団体あり、「大名行列」や「灯籠で飾ろう二川宿」等のイベント、さらにつるし飾りや一輪挿し等、歴史的な街並みにアクセントを与えている。

本地区の取組は、これまでの重要伝統的建造物保存地区とは異なる、よりゆるやかな歴史的な町並み環境形成に積極的に挑戦しており、特に時間をかけながら行政と住民が一体となって地道に取り組んでいる点は高く評価できる。(卯月)



二川宿の旧東海道沿いの眺め。二川宿は、本陣、旅籠屋、商家の 3 か所を見学できる日本で唯一の宿場町である。左の建物は豊橋市指定有形文化財商家「駒屋」。



商家「駒屋」の横にある瀬古道（せこみち）の眺め。市の文化財整備（右）と住民の景観整備（左）が一体となって趣のある景観が形成された。



商家「駒屋」の広場でおこなわれたイベントの様子。自由に入入りできる「駒屋」の敷地は、土蔵や板塀で囲われ、心地よい空間になっている。



二川宿の夏の風物詩になってきた「灯籠で飾ろう二川宿」の様子。沿線に約 3 千個の灯籠が並び、幻想的なまち並み景観が生まれる。